令和７年度　鹿児島市小・中連携研修会
19 グループ（南中　宇宿小　南小）研究のまとめ

１　研究主題

未来の社会の創り手を育成する教育活動の在り方

～　小・中学校で一貫した共通実践を通して　～

２　研究主題設定の理由

ＶＵＣＡと言われる先行きが不透明で将来の予測が困難な時代の中で、児童生徒一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な未来の社会の創り手となることが求められている。

そのためには、学校が地域社会や家庭との連携を深めるとともに、児童生徒の実態を踏まえ、９年間の学びの連続性を生かしながら、発達段階に応じた指導を充実させることが重要である。

そこで、これまでの研究の成果と課題を踏まえ、小・中学校が連携を密にし、一貫した効果的な指導の在り方を明確にすることで、未来の社会の創り手となる児童生徒を育成することができるのではないかと考え、本主題を設定した。

３　研究の視点

(1) 確かな学力を身に付けさせる学習指導の推進
(2) 基本的な生活習慣を定着させる生徒指導の推進
(3) 個に応じた支援の充実を図る特別支援教育の推進

４　研究協議の柱

(1) 学力向上
　ア　タブレットを活用した思考力を高める授業づくり
　イ　学びの蓄積や振り返りの充実
　ウ　発表力や表現力の育成
(2) 生徒指導
　ア　ＳＮＳとの付き合い方やトラブル対応
　イ　メディア利用による生活習慣への影響
　ウ　生徒指導事案における学校と家庭の役割
(3) 特別支援教育
　ア　特別支援学級の現状
　イ　早期の進路指導の在り方
　ウ　生活習慣の確立（保護者との連携）

５　研究協議内容

(1) 学力向上

○　教科担任制について

- 他の学級を知ることができる。
- 教材研究を深めることができる。
- 業務改善につながる。
- 中１ギャップの軽減に生かされるのではないか。
- 担当している教科以外の学力を十分把握するまでには至っていない。
- 学級担任ではないので，その教科について個別指導の時間を確保するのが難しい。
- 時間割の設定が難しい。

○　ＩＣＴ活用について

- タブレットを持ち帰らせた際の家庭での使い方に不安がある。
- デジタル教科書を使用する際の板書の在り方を考えたい。
- ロイロノートのシンキングツール活用に難しさを感じる。
- ナビマ使用の際，キーボード入力の技能向上が必要だと感じる。また，書く力の向上にも努めたい。
- 家庭学習の課題として，ナビマとその他の内容のバランスを考慮したい。
- 授業の終末段階でナビマを活用している。

●　共通実践事項として

- タブレットの効果的な活用の在り方について研究実践してはどうか。
  （どの場面でどの機能を活用すればよいか。）

(2) 生徒指導

○　ＳＮＳとの付き合い方やトラブル対応について

- ＳＮＳトラブル対応は，原則として保護者間で行うべきだと考えるが，全て任せると関係性が崩れる恐れがある。
- 小学校でも，特に高学年においてはトラブルが多い。
- 保護者からＳＮＳトラブルについての相談を受けることはあるが，見届けが難しい。
- Teams（チャット機能）でのいじめ事案があった。使ってよい機能についてのルールが必要である。
- 休み時間は使わせない，調べ学習等の際に子供だけにしないなど，校内でのルールは必要である。

○　メディア利用について

- 注意喚起は必要である。
- 小学生でも，深夜までスマホ等を使っている児童がいる。
- 小中一貫で取り組めるルールづくりが必要ではないか。
- 外部講師を招いての講話等を計画してはどうか。

○　生徒指導事案対応について
- まなびポケットを使って保護者からの相談を受けている。出欠連絡についても，まなびポケットに移行したい。
- 早寝・早起き・朝ごはんの習慣化は，児童生徒の健全育成に重要である。

●　共通実践事項として
- 外部講師による講話（健康への害等）を，年度の早い段階で実施する。
- 休み時間のタブレット使用を禁止する。
- メディアコントロール週間にチェックリストを活用する。

(3) 特別支援教育

○　特別支援学級の現状について
- 家庭の理解を得ながら連携を図る必要がある。
- 交流学級との連携も重要である。
- 複数学年を同時に学習させることに課題がある。
- 教室になかなか入れない子供への対応に難しさがある。
- 交流学級でのインクルーシブ教育を推進したい。
- 個に応じた指導の工夫が必要である。

○　進路指導について
- 進路について説明する際は，入試や面接などの現状についても伝えるようにしている。
- 小学生でも，入試や就職を見据えて指導するようにしている。
- 社会生活を意識しながら学校生活を送るように指導している。
- 学校間で情報交換・共有をしていきたい。

○　生活習慣の確立について
- 自立することを目的に，日々繰り返し指導・支援している。
- 不登校対応に課題がある。
- メディアに依存している子供がいる。
- 継続的に指導・支援していく必要がある。
- 家庭との連携が重要だが，難しさもある。

●　共通実践事項として
- 入室したら着席して待つなど，基本的な習慣を身に付けさせる。

６　次年度に向けて（共通実践事項等）

学力向上	○　タブレットの効果的な活用（学び合いや学びの蓄積の継続）
生徒指導	○　挨拶ができる，時間を守る児童生徒の育成 ○　ＳＮＳトラブルの防止（情報モラル教育の充実）
特別支援教育	○　学校間の情報共有と連携 ○　基本的な生活習慣の確立 ○　家庭との連携